

## 2-3. 鉄骨造【内壁(間仕切壁)の設計】

### ⚠ 注意：適用範囲

- ヘーベルライトは一般階や地下室の内壁、間仕切壁など多くの用途で使用できます。
- ヘーベルライトは耐火間仕切壁(不燃材下地・1時間)の認定を受けており、大規模建築の防火区画として使用できます。
- ヘーベルライト間仕切壁は、長屋・共同住宅の界壁用としての遮音構造指定はを受けておりません。

※本章は内壁(間仕切壁)での設計上の注意点をまとめたものです。

その他の注意事項は、「2-1. 鉄骨造【鉄骨下地外壁の設計】」に準じます。

### ⚠ 注意：下地の設計

- 下地は軽量鉄骨や木軸組とし、その仕様は外壁に準じてください。  
内壁の場合は縦張りが多く採用されています。間柱は1.8~3.0mピッチとし、横胴縁を入れた下地構成としてください。
- 鉄骨胴縁の間隔は床上1.8mまでは600mm以下、それ以上は900mm以下としてください。
- 木軸の場合は全て500mm以下の間隔の下地構成としてください。
- ヘーベルライト間仕切壁はかなりの重量となりますので、床版の設計にご留意ください。必要により支持梁で荷重を受けてください。(参考重量)約100~200kg/m<sup>2</sup>(壁面積)

### ⚠ 注意：パネルの設計

- ヘーベルライト内壁は、平パネルとデザインパネルいずれも使用できます。
- 目地は突付け施工とします。
- 柱や外壁との取合部および内壁の入隅などには、層間変位に追従するため、クリアランスを10mm以上設けます。クリアランス部分はシーリング材を充てんしてください。

### ⚠ 警告：関連工事

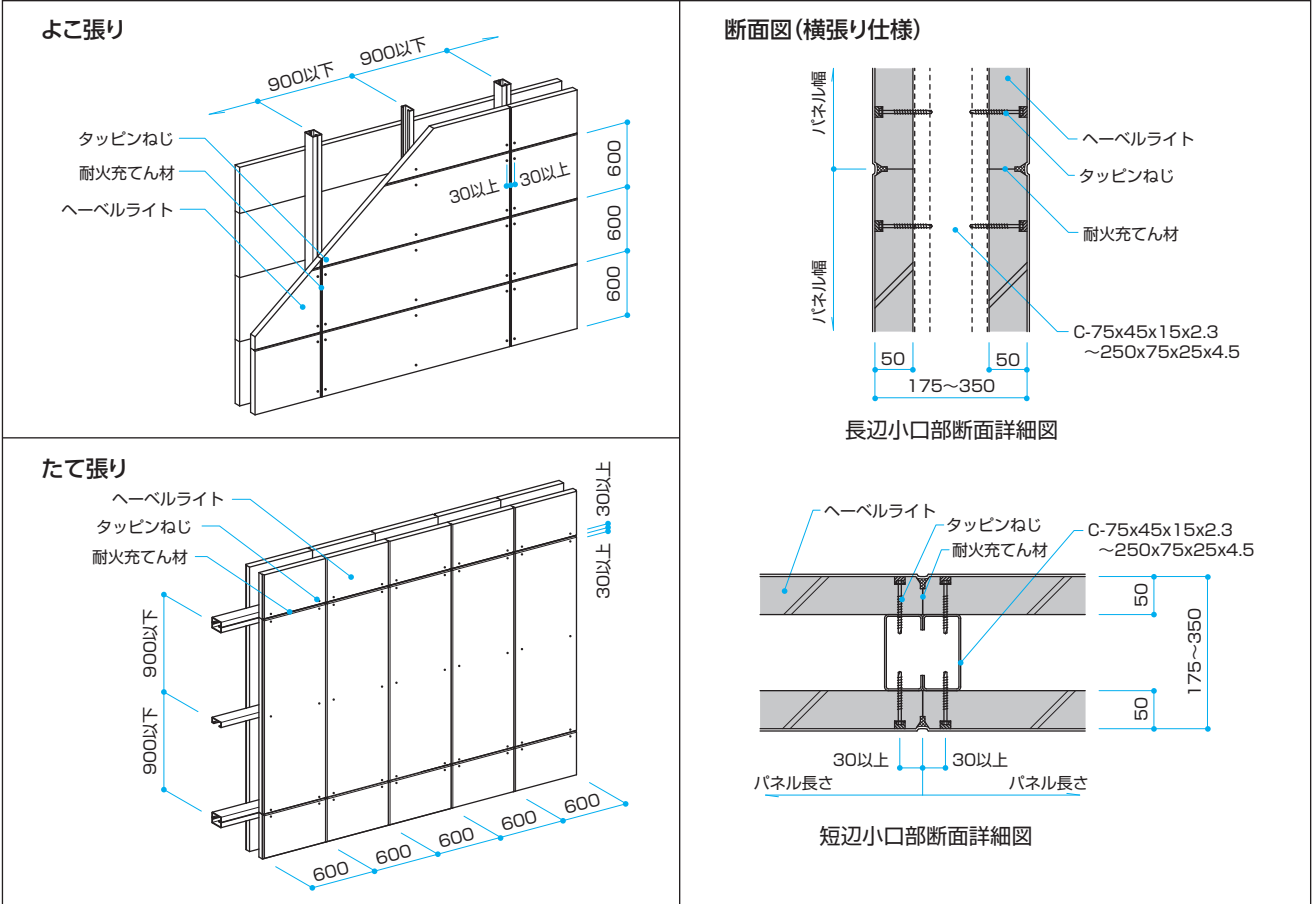
- 衛生機器などパネルに集中荷重がかかるような重量物の取り付けは避けてください。  
この場合、躯体または胴縁に直接アンカーすることが必要です。
- 出隅部や開口周りは傷つきやすいので、コーナービートなどで保護してください。

### ⚠ 警告：耐火間仕切壁の構成例(FP060BP-9012の仕様説明)

- パネル小口部に所定の耐火充てん材を塗布します。目地部の微小隙間を充てんして熱の伝わりを遮断します。  
防火構造仕様の場合、耐火充てん材は不要です。
- デザインパネルご使用も可能です。
- 出入隅などのクリアランスを設けた目地部には、ロックウールまたはAESブランケットなどの耐火目地材などを充てんし、熱遮断と同時にパネルの動きに追従させます。この場合、必要によりバックアップ材などを用いてください。
- 下地鋼材はJIS G 3101(一般構造用圧延鋼材)、JIS G 3350(一般構造用軽量形鋼)に規定するもの、または同等品としてください。

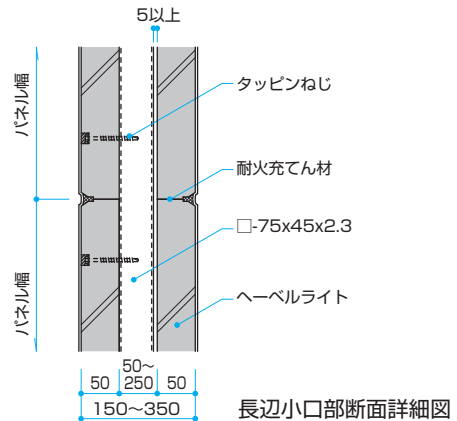
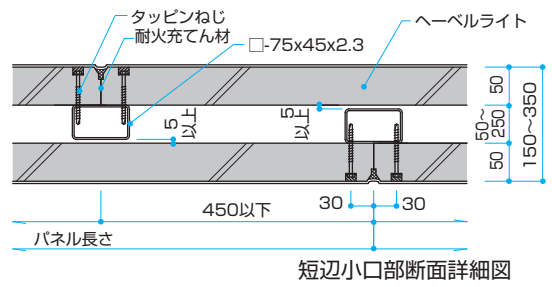
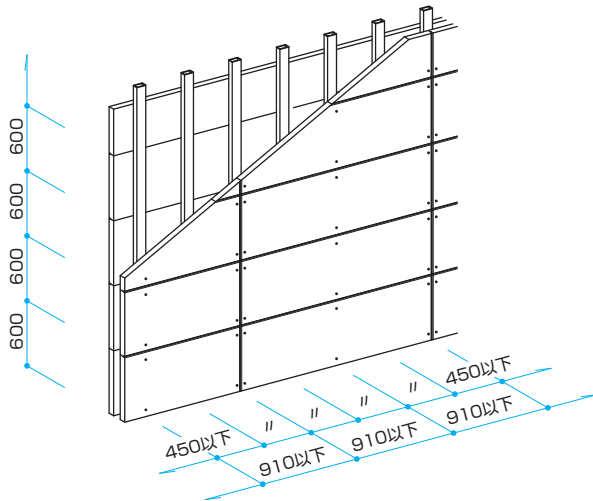
# 鉄骨造 耐火間仕切壁の構成例(FP060BP-9012)

## ●構造説明図 [単位:mm]



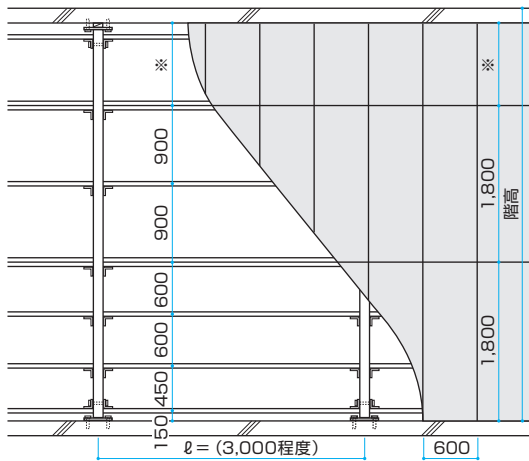
## ●特殊仕様 [単位:mm]

縦胴縁の下地鋼材を干鳥に設置し、両側のパネルが胴縁を共有しないようにすることにより、より一層耐火性や遮音性が向上した耐火間仕切として使用できます。



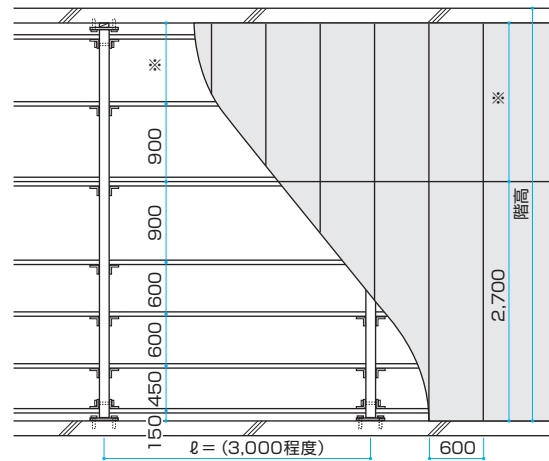
# 鉄骨造 下地の構成例 [単位:mm]

標準パネル・デザインパネル (長さ2,400mm以下)



※現場合わせの寸法により異なります。

長尺パネル (長さ2,400mm超)



※現場合わせの寸法により異なります。

標準パネル

長尺パネル

デザインパネル

